

διασπορά

ディアスポラ

知っておきたいキリスト教のことば (139)

ディアスポラ でいあすぽら

ディアスポラとは「散らばったもの」、「離散」という意味のギリシア語で、キリスト教では特に、バビロン捕囚の後などに、パレスチナの外に住むようになったユダヤ人を指します。

紀元前 587 年、ユダヤの首都エルサレムが破壊されます。その時に多くのユダヤ人は、バビロンを中心としたメソポタミアの各地に捕囚として連れて行かれます。また他のユダヤ人たちもエジプトへ逃亡したと書かれています。この時代、メソポタミアとエジプトが、ディアスポラの二大中心地となります。

さらに、ペルシアや地中海周辺にもユダヤ人は移り住み、そこにもディアスポラによる共同体がうまれていきます。

紀元 70 年、ユダヤ人は第一次ユダヤ戦争に敗北し、エルサレム神殿は崩壊します。その結果、さらに多くのユダヤ人が周辺地域に散らされていきます。

ユダヤ人は自分たちがこのように散らされることを神さまの裁きだと考えていましたが、同時にこのような辛い状況を神さまの意思だとも理解するようになっていきます。

ディアスポラのユダヤ人は、民族的・文化的・宗教的アイデンティティを保ったまま、生活しました。その排他的な信仰生活によって、周囲の異邦人から反感を買うこともあったようです。

彼らは毎年神殿税をおさめ、また過越祭などの大きな祭りの際にはエルサレムへ巡礼をするなど、パレスチナに住むユダヤ人と同じことをするようにしていました。

また使徒言行録などに登場するパウロやバルナバも、ディアスポラのユダヤ人だったそうです。

次回は「弟子」です。お楽しみに。



「バビロン捕囚」

ジェームズ・ティソ

(1836～1902 年)

離散した同胞を集め、異邦人のもとで奴隷にされている者たちを解放し、虐げられ、疎まれている者たちにも心を配ってください。そして、あなたこそ我々の神であることを、異邦人たちにも悟らせてください。

(マカバイ記二 1 章 27 節)

